

第4回 第6期 米原市自治基本条例推進委員会
これまでの意見まとめ

テーマ1：オンラインでの情報共有の在り方について

(現状・課題)	(方向性)	(意見)
<ul style="list-style-type: none"> アンケートのような量的調査以外にも質的調査が必要 市がもつ情報発信媒体としてはほぼ網羅している。 必要な人に必要な情報が届いているか不明 知りたい情報と届けられる情報がミスマッチ 	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加、情報伝達の満足度を高めるために、どんな情報がどんな媒体で発信されているか、発信した情報が有効に活用されているか整理が必要 	

テーマ2：オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方）

(現状・課題)	(方向性)	(意見)
<ul style="list-style-type: none"> 自治会加入率が高い。 昔からの住民と新しい住民の意識の差がある。 積極的な関わり、活動が引き出される工夫が必要 役員のなり手がなく、世代交代ができていない。 防災、減災の面から自治会の必要性が再認識されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世代間交流、新しい住民と従来の住民との交流、テーマ方組織(NPO法人)と地縁型組織(自治会)の交流など他世代、他組織の交流が必要 現在にマッチした自治会運営に変えていく議論も必要 	

テーマ3：職員と地域との関わり方について

(現状・課題)	(方向性)	(意見)
<ul style="list-style-type: none"> 市外在住の職員が増加(地域の現状を良く知らない、市民も職員の顔を知らない。) 地域に寄り添った施策を展開するためには、地域に入り込むことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体側、行政側からの双方向の提案のほか、自治体の職員が地域の現状や課題を把握する機会としての位置付け、市民と行政職員が地域で一緒に取り組むパートナーだとお互いが思えるようなデザインやアプローチが必要 	